

No. 25

全口的無産政党組織の準備運動に關して地方的に活動してゐる事、第三九州民憲党は全口的無産政党組織の具體的成案完成の上に全九州に在る農民組合、水平社其他の無産團体等とも積極的に一單位（政黨的）に結合なし得ること、右は私見なさうにはさまざる限り御諒解せらるゝ所であると覺えます。殊に九州民憲党は八月十五日の中央委員會に於て前產政党組織準備委員會と對する交渉委員選舉の件を可決し九月一日の中央委員會に於て前記交渉委員選舉の結果、浅原健三、中田未三郎、河島真二の三君が交渉委員たる事に決定して居ります。元来九州民憲党は一部の論著者の指摘するか如く日本農民組合の提議に背せずして所謂總同盟政治部の提唱に實行して居る。地方政黨樹立の方向を努力して居るのではありません、實に初から積極的に全口的無産政党の組織を希望したのであります。したが、そしてそれは今日まで終始何等變らないのであります。か何しろ我々の無産政党組織準備委員會が成立當時は政治研究會の他共に諸々べき機關が未だ組織されてゐなかつたのであります故に我等は全口的無産政党についての九州に於ける地方防備機関としての代々の無産政党組織したのであり、九州民憲党はその延長にすまいのであります。此の理由で依つて九州民憲党は此の委員會が無産政党組織準備委員會に我等の参加する事を認容せらるゝべきであると思ひます。

無產政黨組織準備委員會御中

中華書局影印

日本に好んで熱狂的組織運営の如きは、國民化は勿くしてある。

九州正傳

廣雅